

## 2022年度 第8回 公立大学法人埼玉県立大学理事会 議事録

### 1 日 時

2023年1月23日（月） 10:00～11:00

### 2 開催場所

本部棟大会議室（オンライン併用での開催）

### 3 出席者

田中理事長、星副理事長、阿部理事、伊藤理事、荻野理事、岡島理事、佐野監事、中野監事

### 4 出席教職員

鈴木副学長兼学部長、朝日学長補佐兼高等教育開発センター長、濱口研究開発センター長、福田副局長、森調整幹兼総務担当部長、山口企画・情報担当部長、関口教務・入試担当部長

#### 【視聴】

金村研究科長、林学生支援センター長、延原情報センター所長、田口地域産学連携センター所長、滑川保健センター所長、東高等教育開発センター副センター長、北畠地域産学連携センター副所長、田中共通教育科長、鈴木看護学科長、山崎理学療法学科長、川俣作業療法学科長、河村社会福祉子ども学科長、高橋健康開発学科長、片岡財務担当部長、山崎施設管理担当部長、江尻学生・就職支援担当部長、関根研究・地域産学連携担当部長

## 5 議事概要

### 【議事録確認】

理事長から前回の議事録が提示され、確認された。

### 【議決事項】

#### (1) 第23号議案 教員の採用について

資料に基づき、星学長から説明した。

案のとおり、異議なく議決された。

#### 主な発言は以下のとおり

- ・採用する教員の担当科目である地域包括ケアは、理事長の専門領域であり、大学の看板科目の一つであるので、良い教員を採用いただきたい。

### 【報告事項】

#### (1) 2022年度監事監査（期中）の結果について

資料に基づき、中野監事から説明があった。佐野監事から、会計監査人との意見交換の内容について説明があった。

#### (2) 2023年度推薦・編入・社会人入試結果について

資料に基づき、関口教務・入試担当部長から説明があった。

#### 主な発言は以下のとおり

- ・学科専攻により倍率の差が大きいが、その理由は何か。学生の質に差はみられないか。

→国会資格取得の有無ではなく、卒業後の就職先やその待遇等により、学科専攻の人気に差が生じていると考える。競争入試の性質から、一定程度の倍率は維持すべきであり、オープンキャンパスや高校訪問等の働きかけを行い、少しでも倍率を高めていけるよう努力している。

- ・4月には子ども家庭庁も設置され、少子化対策が最重要課題となっている。人材の確保の観点からも倍率を高める努力をしていただきたい。
- ・継続して出願者が少ない学科は、推薦枠を減らすなどの検討はできないか。また、定員枠は学科間で融通できるものなのか。そもそも定員数は、学科専攻で養成する人材数は県内の需要やニーズ等の社会情勢により設定しているのか。

→推薦入試枠は、県内就職率60%の目標達成のため拡大方向で進んできたが、倍率が低下すると1を下回る可能性もあり、中長期的に考えていく必要がある。また、定員枠については、教員の体制と密接に結びついており、すぐさま学科間で融通することは難しい。定員数は県との調整の中で決まっております簡単に変更できないものの、理事のご指摘のとおり社会情勢の変化によりニーズも変わってくるので、中長期的には見直しをしていくべきものと考えます。

- ・3年次編入学、社会人特別選抜のニーズは何か。また要件は何か。

→3年次編入学は、専門学校や短期大学から学位取得を目的とする学生を受け入れることを目的として3年次編入学を実施している。特に看護学科ではそのニーズが多く、ハードルが高いが助産師や保健師を目指す者もいる。また社会福祉学専攻においては、社会福祉士を目指す者が編入をしている。社会人特別選抜では、大学で学びたい社会人を幅広く受け入れる制度であり、社会人が受験しやすい試験内容としている。入学者は他の者と同じく1年次生として学ぶこととなる。

- ・少子化により学生減少が予想されており、向学心の高い社会人の学生を確保するため、制度を活用してもらいたい。

→社会人について門戸を広げておく必要があるものの、専門性の高い教育課程についてこられるかという課題がある。そのため、入学者の選抜をしっかりとしないといけないと考えており、他と同等の試験内容とするよう変更していくこととしている。

全国的に3年次編入学は廃止の方向であり、本学の3年次編入学志願者は県外生がほとんどであり、県内の専門学校生等が学位を取得するために設置した当初の目的は失われつつあり、定員枠変更について改革を進めているところである。

- ・社会情勢としては雇用の流動化が求められており、リスキリングという言葉も定着しつつある。社会人枠については、学び直し機会として考えてもらいたい。

### (3) 2022年度埼玉県立大学学生調査(卒業生、修了生)について

資料に基づき、山口企画・情報担当部長から説明した。

主な発言は以下のとおり

- ・「埼玉県に戻って働きたいという希望はありますか」という問いで「希望をもっている」という回答が少ない。ぜひ理由も聞いてもらいたい。

ホームカミングデー等の同窓会活動に4割の者が「関心がある」と回答している。同窓会からの寄附が大きな財源となる。同窓会を育てていただきたい。

- ・1年、4年、7年目の卒業者を対象とした理由は何か。卒業生の年数により調査結果に差はあるか。

→本調査は、ディプロマポリシーに関する質問が主な目的となっている。現在のディプロマポリシーができてあまり時間も経っていないので、1年、4年、7年目の卒業者を対象としている。年数ごとのデータはあるので、検討の上、提出したい。

- ・回答時の属性＝職業により結果に差があるものと思うので、次回は聞いていただきたい。また、大学院への入学希望については年次により回答に差があるのではと推察される。また、大学院でどういったことを学びたいのかニーズをもう少し調査をしてはどうか。その結果を、本学の大学院でどういったことを学び、どういった分野につながるのかといったことをPRいただきたい。

→職業については、データとしては存在しているが、整理しきれていない状況なので、出し方を検討したい。本学大学院への入学希望は6.7%であるが、調査対象者1,076人、回答者228人による回答であるので、定員20名に対してはかなりのニーズがあると思われる。大学院改革を検討するにあたって、別途ニーズ調査を実施しており、次の機会に整理してお出ししたい。

#### (4) 2023年度分科研費の応募状況について

資料に基づき、濱口研究開発センター長から説明した。

以上